

# 金融経済概観

## 金融市場動向

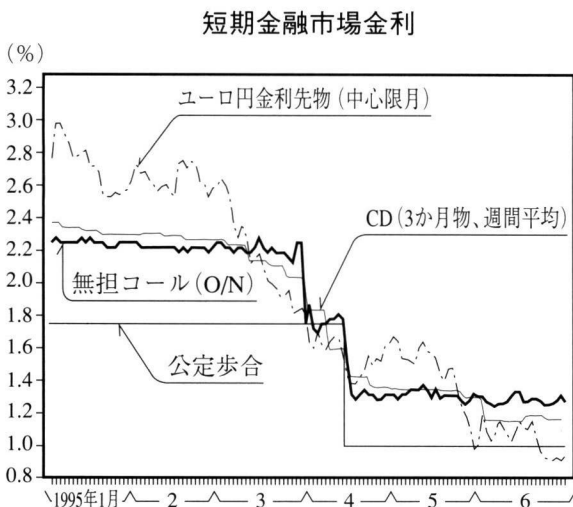
— 平成7年6月 —

(平成7年7月14日)

### 1. 短期金融市場

6月中の無担コール・オーバーナイトレートは、概ね1.3%を挟む水準で推移した。CD（譲渡性預金）3か月物レートは、1.15~1.2%の間で安定的に推移した。一方、ユーロ円金利先物（3か月物、金利ベース）は、月央にやや強含んだものの、下旬には再び1.0%割れとなり、そのまま越月した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高（全国）は、43兆3,711億円と前月（44兆585億円）に比べ減少した。

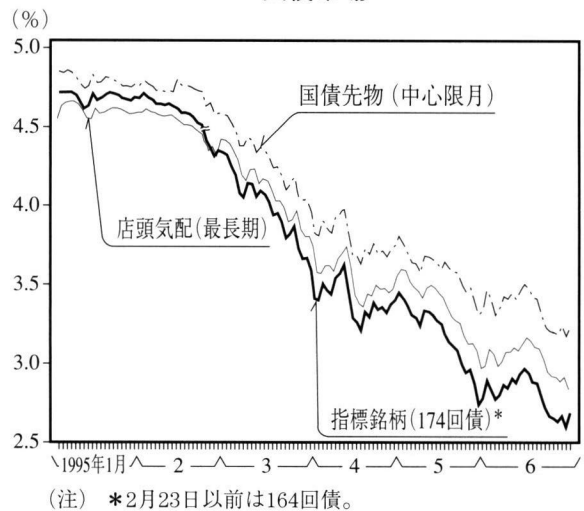


### 2. 資本市場

6月の長期国債利回り（174回債）は、上旬

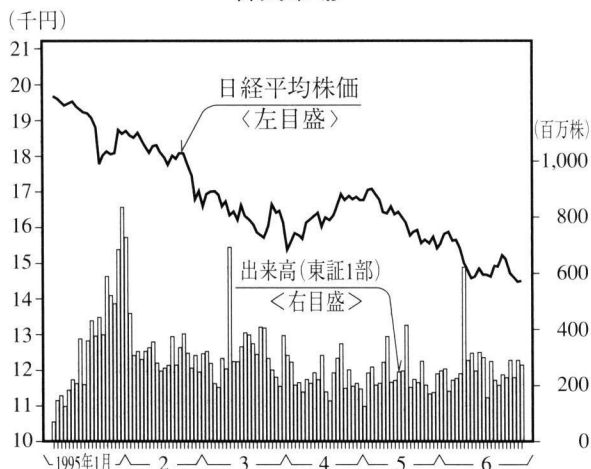
から中旬にかけて上昇したものの、下旬入り後は、一部経済指標の弱さ等を材料に低下し、結局2.690%で越月した（前月末2.745%、国債先物中心限月利回りは3.247%＜前月末3.311%＞で越月）。国債の出来高は、現物（店頭取引）は前月を上回り、先物は前月を下回った。

既発債市場利回り  
— 国債市場 —



株式市況（日経平均株価）は、上旬から下落基調を辿り、14,517円と前月末（15,436円）を大きく下回って越月した。株式出来高（東証1部、月中1営業日平均）は、2.73億株（速報）と前月（2.43億株）を上回った。

### 株式市場

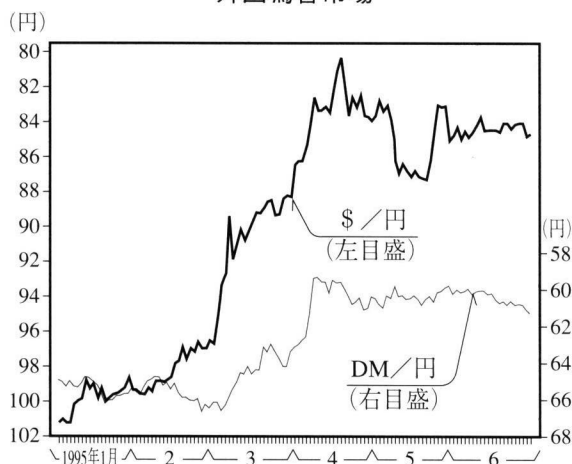


6月の国内公募普通社債は、発行コストの割安感から電力等による前倒しの起債が継続し、月中4,450億円（5月5,750億円）と前月に引き続き高水準の発行となった。一方、国内エクイティ市場での発行（6月払い込み分、増資を除く）は、発行体の見送り姿勢から、平成4年9月以来の起債ゼロ（前月300億円）となった。

### 3. 外国為替市場

6月の円の対米ドル直物相場（東京市場、17時時点）は、月末には日米自動車交渉妥結を受けて、一時的に86円台まで下落する局面もみられ

#### 外国為替市場



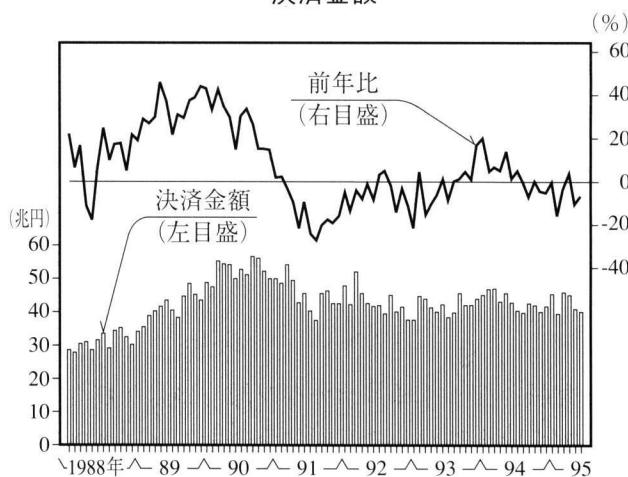
たが、月中を通じて概ね84円前後での小動きに終始し、結局84.77円で越月した（前月末83.19円）。円の対独マルク直物相場（東京市場、17時時点）は、月後半に若干弱含み、結局61.22円で越月した（前月末59.78円）。

この間、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は200.2億ドルと、前月（212.0億ドル）をやや下回った。

### 4. 決 済

6月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、手形交換高（東京）は前年同月を大幅に下回った（前年比△43.6%）が、全銀システム取扱高は前年同月を上回った（同+7.1%）。この間、外為円決済交換高は前年同月を若干上回った（前年比+2.6%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）については、移転登録、振込口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比+43.9%、振込口座振替：同+10.3%）。

#### 決済金額



(注) 1. 1営業日平均。  
2. 手形交換高（東京）、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

### 5. 資金需給、金融調節

6月の資金需給をみると、財政等要因は1兆

6,729億円の余剰（前年同月3兆374億円の余剰）となった一方、銀行券要因が2兆7,811億円の不足（同2兆6,001億円の不足）となったことから、全体では1兆1,082億円の不足（同4,373億円の余剰）となった。

こうした状況下、日本銀行は売出手形買戻し等により資金を供給した。

7月の資金需給（国債発行織り込み前）を窺うと、財政等要因については、夏季ボーナス等にかかる源泉所得税を中心とする税揚げ等が見込まれるものの、国債の償還等の支払いが嵩むことから1兆6,100億円程度の余剰（前年同月1兆9,212億円の余剰）となる見通しであるうえ、銀行券要因も、8,000億円程度の余剰（同4,552億円の余剰）となる見通しであることから、全体では2兆4,100億円程度の資金余剰（同2兆3,764億円の余剰）となるものと予想される。

## 6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

5月のM<sub>2</sub>+CD平残前年比伸び率は+3.3%（速報）と前月に比べ0.1%ポイント上昇した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+4.0%（速報）と前月に比べ0.1%ポイント上昇した。

6月の銀行券平残前年比は+5.1%と前月（+4.3%）に比べ上昇した。

6月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+2.4%と前月比伸び率が上昇した。一方、総貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+0.5%と小幅ながら2か月連続で前年比プラスとなった。

## 7. 貸出・預金金利

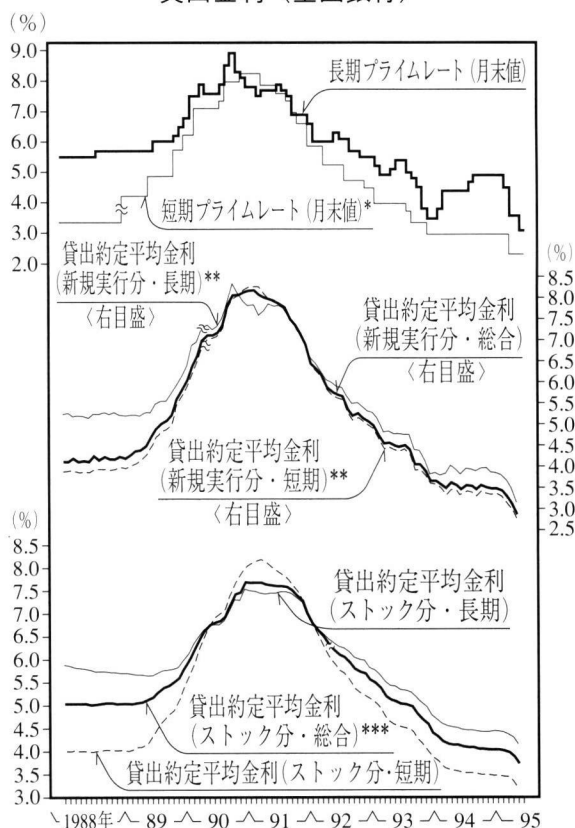
5月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分については、短期が4か月連

続、長期が6か月連続で低下した（短期：前月比△0.231%、長期：同△0.321%）ため、総合でも7か月連続で低下し（同△0.248%、4月3.107%→5月2.859%）、既往ボトムを更新した。

また、ストック分についても、短期、長期、当座貸越ともに低下し（短期：前月比△0.165%、長期：同△0.161%、当座貸越：同△0.196%）、総合では23か月連続で既往ボトムを更新した（総合：4月3.902%→5月3.740%）。

この間、5月の定期預金金利（自由金利分<1千万円以上>、3か月以上6か月未満の全銀受入金利平均）は、前月に比べ大きく低下した（4月1.422%→5月1.244%）。

貸出金利（全国銀行）



(注) \*1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。

\*\*1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

\*\*\*1992年4月以降は当座貸越を含む。

(調査統計局)